巻頭の辭

武漢三鎮の攻略なり、祖國日本の使命愈々其の重大を加へ、肇國の精神は一段と其の光輝を增した。侵略に非ず、征服に非ず、正しき、明き我等の大亞細亞建設への大行進は三千年の昔、其の出發をなし、今や其の武步を固め、再出發をなしたのである。

技術は、宇宙を貫く眞理の、結合具現化である。其の結論され、解釋され盡さざるものありとも、技術は眞理を曲げては成立を許されない。技術は、誠に、自然の征服に非ず、自然の破壞に非ずして、宇宙に藏されたる眞理を誘導し啓發して、より高き、人類文化を建設すべき長期戰を意味する。我等技術屋の誇りと感激とは、此の戰への參劃であり長期建設への用意と實行力とに於ても、我等は決して、人後に落ちざる覺悟を有するものである。

寒帶、温帶、熱帶の三帶を跨ぎ、大地震に、大風害に、大火災に、大水害に、苦熱に、嚴寒に、其他起り得る總ての質的量的自然の大試練に、充分耐へて錬磨したる祖國日本の土木技術は、堂々其の步を大陸滿洲に進め、更に此處にて得たる大陸土木の自信を加へ、蒙疆に北支に、中支に、南支に進出した。我等は祖國日本の土木を忘れない。

然るに、大亞細亞土木の完成をも目標とする我等滿洲土木屋は、大陸の總ての點に於ける特異性を、確實に把握し、模倣と飜譯の技術より解脫せん事を期している。

「道はローマに通ず」とか？　然るに、我等の道はローマにて行き止るべきに非ず、地球を一周二周從横すべきである。然して、此の道は、寒暑に、風雨に、地震に微動だにせず、破壞の懼れなき基礎工を必要とする。

支那五千年の課題黃河は我等の技術を待つている。廣袤たる蒙古高原にも、河が流れ、池が出來、一望千里豐穣なる實を悅び得る日を、我等の技術に依つて近づけ得ないと誰が言ひ得よう。

我等の滿洲土木こそは、大陸土木の母體であり、基礎工である。最も地味な、目に見へざる基礎工の、何ものにも勝りて、重要なるを最も善く理解するものは、我等土木屋である。

我等滿洲土木屋は此の若き、而して永遠に老朽せざる母體建設への光榮に弛まざる精進を續ける。

═ 藤井博士を迎へて ═

10月4日於軍人會館

坂田「本日此處に土曜會のメンバーが集りまして藤井博士から何か新しい御達見を伺ひ〃建設〃にも掲げたいと思ひます」

藤井「別にお話する事もありません、雜誌に載せるのでしたら別に書きます、お話する樣な材料もありませんから　まア渡滿して來た感想でもお話しようと思ひます。

私は5年前に來た事が御座いますが滿洲も事變以來8年にもなります、台灣は明治7年台灣征伐があつて今日に及んでゐますが滿洲は其の當時とは時代が違ふので今日の樣に進歩してゐます、內地から參りまして皆樣に申上げる樣な事はなく滿洲國の方がズツと進んでゐる樣に感じ、敎へられる方が多く、內地で役立つ事をその儘引用して滿洲に適用すると言ふ事は出來ませんし又全然役に立ちませんから申上げる事も出來ません。

只感じを申し上げる事にしますが滿洲の土木工作も已に五、六年經つてゐます。此の間の事を例へて申しますならドイツのドレツゼンにゐた當時見ました二枚の圖面が面白からうと思ひます、その圖の一枚は交通量を表したもので例へば新京——奉天間の交通量を圖で表したもので新京——四平街は比較的交通量が多いから太く、四平街——鐵嶺までは交通量が少いから細く書くと云ふ具合に表してあり、それに對照して他の一枚の圖に道路狀態を新京——四平街は鋪裝があり四平街以南はこんな鋪裝で奉天近くではこんな鋪裝と言ふ樣に書いてありました、それに依つて交通量の多い所は斯うするとか少い所はどうふ鋪裝がしてあるか良く解りました。昨日路關係のお話をお聞きしましたし、明日航司關係のお話をお聞きする事になつてゐまが、滿洲も產業五ケ年計劃がぐんぐん進捗て計劃から實施に移り前にお話申上げまし例の如く着々として工事が進みつゝありま道路に就いて昨日お伺ひしましたお話で始め道路を作りそれから鋪裝をやる計劃でたが旣に道路も出來ましたし鋪裝も着々進してゐます樣で第二期に入つてゐる樣に思ますそれに就いて考へて見ますと、先づ吾が敎へられるのはドイツのオートバンでゐますヒツトラーが政策をとつて先づオートンが計劃され旣に2.700粁に及び1年1.50の計劃でやつてゐます、此のオートバンのソリン・ステーションは中々風雅なもので粁置き位ひに設けてあります。

此の地下室は二階になつて居りまして非に頑固に造つてあり爆彈にあつても壞れな耐火防空の構造でガソリン・タンクが之ら100～200米離れた所に作られそれに100～噸位のガソリンが貯藏されまして之がドイのオートバン全體にありますからドイツの下には何十萬噸のガソリンが匿され貯藏さてゐる狀態であります。日本も海軍等ではソリンの貯藏に相當の苦心をしてゐる樣でドイツのオートバンの周圍に貯藏してありすガソリンを計算して見ますと、70～80萬位にもなる樣です。又戰爭に使用する鐵材

平時如何にストツクするか之も37粁～50粁のレールがストツク出來まして之等の問題を解決する爲にもオートバンを築つてゐます。この次に考へてゐるのは大都市計劃であります此の都市計劃に不可能な事を可能にし何萬人もの民衆を收容出來る大廣場を地下に作ると言ふ事を4月から計劃してゐます。よく皆樣が映畫や寫眞で何萬人の人々が集つてゐるのを見受けられませう、あの樣な廣い廣場をこのオートバンを利用して不可能の事も可能ならしめる計劃をやつてゐます。ヒツトラーは3月に政權を獲り5月には已にオートバンをやり始めてゐます。如何にドイツはこのオートバンに全力を盡してゐるかゞ伺はれます。滿洲も建國以來6年で新進國として躍進し建設も二期から三期に移つてゐます。今の樣な狀態ですと今日の決心次第ではどんな事でも出來ます今日斯くも進んでゐる滿洲に就いて吾々が內地で研究してゐる樣な事をそのまゝ滿洲で到底お話する事は出來ません。たゞグランドダイレクションに觸れる事は出來ますが具體的に斯うするとか、ああするとか言ふ事は一朝一夕で申上げられるものでありません却へつて教へられ考へさせられる丈です。それ程滿洲國は進みつゝあると考へます。吾々は到底皆樣にお話申せるものでありません。

坂田「そう謙遜されずに外に何か御座いましたら斷片的にでも御話下さい。皆樣も何か御質問がありましたら御遠慮なく言つて下さい」

藤井「日本は未だ斯く滿洲に對して、と言へば語弊がありますが殖民政策と言ふ樣な事は從前に無かつた爲か今までに誰も良い達見も持つてゐませんでしたし、又資料もなく吾々は何等知り得られなのいであります。外國では3～4百年前から殖民政策をやつて効果をあげてゐますが日本の滿洲に對するのとは又問題が別ですが」

坂田「各國は殖民地のデーターを秘密にしてゐる樣で良い事を教へて呉れない」

藤井「英國が印度に東印度貿易會社を設立しましたのは日本の丁度關ケ原の役があつた時でこれは貿易會社ですがこの會社は貿易のみでなくその當時の總裁グランドの政策は先づ土地を買ひ會社の建物をトーチカに作り屋根には機關銃を据えビルヂング自體を武力の防衛としてその附近に叛亂を起させては之を鎭定し次第に擴げ19世紀の始めに印度を大方とつて了つた。この政策には先づ一番に電信を引きそれから鐵道を敷設する、印度の鐵道は現在36.000哩もある。ですから先づ交通網を充實して次第に勢力を植えて行くと言ふ具合ですこの交通網の充實で英國は守備兵を1/3に減じたと言つてゐます。斯くして滿洲の數倍もある印度があの樣に立派に治つたのであります。道路はその頃自動車もなかつたので道路網とて別に無かつた樣ですが交通網の充實が何より一番重要と思ひますね。

坂田「滿洲でも驛の周りに鐵條網を張つて四隅には銃眼を作つてあります。これから北に旅行されゝばお解りになりますが」

藤井「印度人は迷惑な事ですよ、土地を貸してオフイスが出來たと思ふともう城になつてゐるんですから」

原口「ローマは眞直な道路を造りそれから枝道を造りその間に狹れてゐる區域を先づ治めて次に又枝道を作つて治めると言ふ樣にやつて

ゐました」

藤井「英國にも眞直ぐな道としては東京の中野と高圓寺間の樣な所があります、眞直ぐな道路の途中小高い所で烽火を上げると200粁の處から見えます。

藤井「チヤーチで思ひ出しますがアメリカ殖民地は一番先にチヤーチを作りその側に小學校を作りチヤーチと學校の兩側にテントを張ります、そのテントが道路兩側に並んで次第にテントを木造の家にしたり煉瓦家に建て變へて行きます。始めから木造や煉瓦造にすると都市計劃上支障があつても容易に移動が出來ませんが始めテント村の間は容易に移轉出來ます。チヤーチを市の眞中に造つて置けば市民は毎日其處を通ります、丁度滿洲で忠靈塔を毎日通る樣な所に置いて敬虔の氣持を起させる樣にしてゐますがこれは非常に好いと思ひます、斯くして小學校、教會を作り吾々は此處に永住すべきだと思ふ樣になります。川が必ずありその邊りがコンモンになつてゐて牛が飼つてあります、牛乳はとれますし向岸に畠を作つて小麥をとり家の周りには野菜を作つてゐます。現在ボストンには今尙こんなのが殘つてゐます。

坂田「滿洲でも移民地では部落の眞中に共同土地を作り家の周りに野菜を作り此方には水田を作り向ふには高粱を作ると言ふ樣にやつてゐます。移民地へ行けばよく御解りにならうと思ひますが味噌醬油も作つて自給自足をやつてゐます。相馬君の管内ですから一つ見物して頂きたいです。日本の殖民地政策を云々する人もありますが。」

藤井「アメリカでは已に300年前から、共有地を設け小學校を建てチヤーチを作り畑からート、野菜を作ると言ふ方法でやつてゐたですから現在ではもつと殖民政策も進んゐなければならない譯ですね、毎日仕事に掛ける時必ずチヤーチの前を通つて精神の養にはいゝと思ひます。此方はアメリカとつて匪賊がゐるから僅かの人數では困りまね、やはり大多數固つて居なければ」

坂田「アメリカでも活動寫眞を見るとインデンが出て來ますね」

藤井「あれは匪賊とは異ひますから」

坂田「他に變つたお話でも」

大石「技術聯盟の話はどうなつたのですか」

藤井「7月7日日比谷公會堂で有馬農相の御演がありその後、晩餐會でお話がありましたその内容を要約すれば明治から大正にかけは資本家の自由主義で民間に主力があり推力を有し官廳は只威張つて居て盲判を捺しゐれば良く無統制時代であつたが此れから無統制時代は過古の事で統制に尙經濟と言ものを考へなくてはならない。例へば水力氣に就いて考へれば一つの河川に三井が2キロ三菱が3萬キロ出願すると一年位して可する之が今までの官廳のやつてゐた事でがこれからは之では駄目で政府自身が乘出て一つの河川を精密に調査して2萬キロ3萬ロと許可する事をせず統制してその河を1%に利用し以前は一つの川で20萬キロしかかつたのを50萬キロ～100萬キロも出す樣統制して合理的に技術的にやらねばならなそれで昔の如く威張つて盲判を捺す事が官でなくて役所の人が非常に頭を要する樣につた。まあこんな具合に以上の樣なお話がりました。

坂田「色々御話を伺つて有難う御座いました之を以て一先づ閉會と致します」

（丹生田速記）